

俳句

大津俳句会

風青くして麦の穂の出揃ひしでそろ

井芹眞一郎

亡き姉と良く来しカフエ薦若葉つたわかは

井上 昭子

風真白蕊ましろうしべまた真白初桜

岩崎由美子

茗荷竹みよがたけここぞとばかり立つてをり

大塚喜久子

遠き日の母懐かしく蓬餅よもぎもち

岡崎 浩子

新入生かばんの色の較べっこ

佐賀 久子

木の芽山こめやま忘れかけたる初心しよしんかな

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

明日を待つ無骨に董などだいて

田上 公代

風孕む桜の洞に神宿る

木庭 杏子

ひそひそと更地のスミレ今・昔

上杉 波

辛夷咲くとぎれとぎれの反戦歌

矢嶋 道子

戦場に平和もたらせ春の雪

梅木トキエ

黄水仙いっぱい咲いたよヒロシ君

塚本 洋子

ねんごろに平和広げる春落葉

榮田しのぶ

山々の峰よりのろし野火猛る

村田 健二

サクラ色に染まるひと日よ啓蟄日

志賀 孝子

短歌

大津短歌会・野づかさ

公園の傾斜いっぱい白菊は咲き満ちにけり
秋の光りに

豊岡ミツル

鉢植えの小さなつつじ咲きにけりスマート
フォン開きて眺む

小平 善行

荒れ果てし棚田の畔に降り立てる白鷺はひ
とり友なしにして

吉永 恵子

前を行く猫は尾っぽをびんと立て「マイゴ
ニナラズツイテキナサイ」

坂本 杲子

亡き叔父の家訪ねれば黄熟の花梨たれたり
冬日をあびて

鞍 岳志

「いらっしやい」「ありがとう」もなく矢印に
従いて行くセルフレジまで

山本 泰子

草の上素足であるけばわが内の女童アリス
がクスクス笑う

吉田 良子

屋根にいて朝の日あぶる職人の釘を打つ音
ひびけり空へ

荒木 麗子

開きたる窓より子らの声聞こゆ兄弟喧嘩の
真っ只なか

田中 玲子

拓本は夫と二人で合い採りす詠みの厳しさ
万葉のうた

菅野 静